２０１６年３月１日

セミナー通信　Ｖｏｌ．２５０

西村セミナールーム
主宰　西村　恵子

セミナールーム十訓より一「明日を信じて自ら立ち上がれ」

４時間の直前対策が終わったあとの教室。残って勉強を続ける数名の中 3 生。強制されたわけでもないのに、こつこつと社会の年表を書き上げていく。地味で根気のいる作業である。何も見ず、自分の頭の中に正しく知識が入っているか丁寧に出して確認している。何度も手が止まる。じっと考え、また書き始める。入試を前にした総仕上げを自分で考えて行っている彼ら。自分のタイミングで順に帰っていったが、最後に残った一人の男の子は、結局２時間近く、もくもくと書き続けて最後まで仕上げた。「全部あっていると思います。」と微笑んでいた。

彼は偏差値の高い高校を志望している。学校の先生には始め「高望みじゃない？」と止められた。この高校は親から言われているわけでも塾から言われているわけでもない。誰かが行くから自分も、というわけでも、誰かとはりあって、というわけでもない。静かに自分の胸の底の声を聞いてみたら、行きたい大学があったので、そこへの足がかりとして自分で選んだ。

足りない内申。足りない偏差値。それらをなんとかするために秋からがむしゃらに頑張り始めた。睡眠時間を十分にとらず、体調を崩すという失敗もした。それでもなかなか思うような結果が出てこない。ミスをしてしまう自分のふがいなさをなげいたり落ち込んだり・・・。

でも彼はくさることもなく毎日勉強を続けた。２月中旬、学校の多くの友達が推薦で合格を決めていく。彼も学校からは彼の目指す高校よりワンランク下げた高校への推薦をさんざん勧められたが、推薦はとうとう受けなかった。目指す公立高校に落ちたならば、すでに合格を勝ち取った私立高校へ通う覚悟はできている。自分の熱意と覚悟を自分の言葉で伝え、学校の先生にも認めていただいた。受験の終わった友達が遊ぶ中、彼は公立受験にむけて学校でも勉強し続けている。かっこ悪いとか、まわりからどう思われるかとか、そんなことはどうでもいい。目指す高校に受かりたい。その一心だ。塾でのリハーサルテストで目標点になかなか届かない。そんな現実に心が折れそうになりながらも、自分を奮い立たせて今日も頑張っている。

止まない雨はない。今日できなくても明日にはきっかけが掴めるかもしれない。現実を見つめることは重要であるが、安易な安全圏に甘んじて欲しくはないし、自分自身の可能性に悲観的になって欲しいとは思わない。若者は現実を見つめつつも、踏まれても踏まれても立ち上がる麦の芽のように、どんな時にもプラス思考であってほしい。本当の夢ややる気というのは、どんなことがあっても失わないもののことを言うのである。最後の十訓が当塾の全てである。

全ての西村セミナールーム塾生よ、**「明日を信じて自ら立ち上がれ」！！**